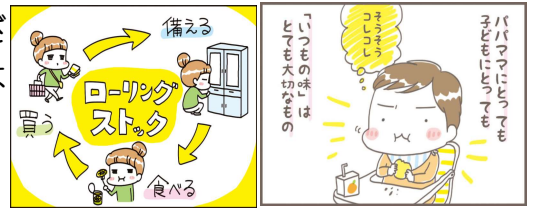


trivia

災害に備え日常の中に食料備蓄を取り込むという考え方もあります。普段から少し多めに食材、加工品を買っておき、使ったら使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の食料を家に備蓄しておく方法をローリングストックと言います。ポイントは、日常生活で消費しながら備蓄することです。一定量を保ちながら、消費と購入を繰り返すことで、備蓄品の鮮度を保ち、いざという時にも日常生活に近い食生活を送ることができるはずです。飲料水、燃料、ウェットタオル、カセットボンベ、乾電池、使い捨てカイロなどにも応用できます。（佐藤）



法人事務局 山武事業所

- 中核地域生活支援センター事業 さんネット
- さんぶ生活相談センターリンクサポート
- 千葉県障害者グループホーム等支援事業
- よろず相談センター ぬくもり



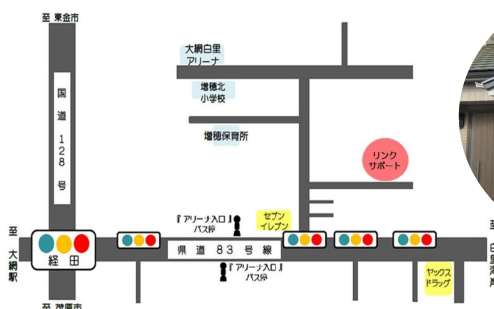
お車の場合
国道126号線をご利用ください
電車をご利用の場合
成東駅下車 徒歩7分

〒289-1345 千葉県山武市津辺171-1
TEL: 0475-77-7531 (さんネット)
TEL: 0475-77-7532 (リンクサポート)
FAX: 0475-77-7538

大網白里事業所

- 大網白里市生活相談センター
リンクサポート

〒299-3221
千葉県大網白里市富田2130-7
TEL: 0475-72-5439
FAX: 0475-72-5452



発行元



特定非営利活動法人リンク

〒289-1345
千葉県山武市津辺171-1
TEL: 0475-77-7531
FAX: 0475-77-7538

編集後記

昨年9月からの水害は停電、断水、電話の不通という今ある環境がいかに脆いものであるかを知らされた2か月間でした。現在も様々な場所で復旧・復興活動が進められています。リンクスタッフも微力ではございますが、出来る限りのご支援を続けさせていただきます。この度の被災に際し、心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早いご復興を心からお祈り申し上げます。（広報班）

特定非営利活動法人 リンク

人がつながる 地域がつながる 社会がつながる

つながりたい かけがえのないあなたと



新年のあいさつ



新年明けましておめでとうございます。

平成から令和に代わり、新たな時代の訪れと新鮮さを感じていた最中に、千葉県は大災害にみまわれました。この度の台風や大雨で被災された方々におかれましてはお見舞い申し上げます。当法人でも、一時的に停電・断水・電話が繋がらない状態となりました。

当法人としてできることは「情報」であると考え、山武圏域及び周辺地域の情報収集と情報発信を行いながら、支援物資寄付品等の調達及び必要としている方への配達を積極的に行いました。しかし、不十分であった停電対策や備品の備えなど、2011年3月11日の東日本大震災での教訓を活かしていたのか、又、危機感を常に持っていたのか・・・、そんなことを振り返り、改めて気を引き締める機会となりました。過去を踏まえて現在や未来に活かすこと、時間が経過しても色あせず活動し続けること、この2つの考えを常に心に留め、行動として示すことが大切だと再認識しました。



地域共生社会の推進が図られる中で、生活のしづらさを抱える方への支援を掲げる当法人が成すべきことは何なのかを、常に考えながら積極的に活動し続けていきますので、皆様におかれましては、今後も変わらぬご理解・ご協力とご参加をお願い致します。(理事長 吉井)

心より御礼を申し上げます



昨年9月9日の台風15号以降、多くの皆様から支援物資・物品・復旧作業の提供を頂きました。この場をお借りいたしまして心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。

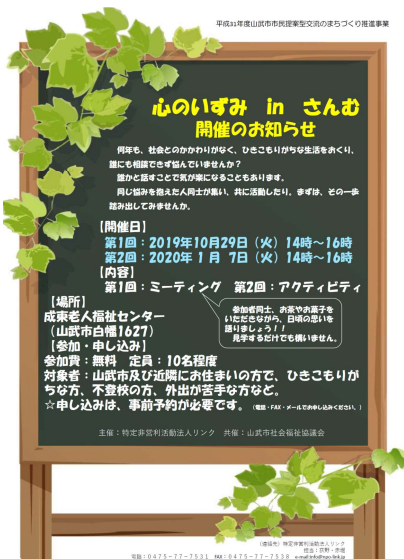
- ・ひまわりの丘
- ・松寿園
- ・(福)龍心会
- ・ベリタス・コンサルティング
- ・老健やすらぎ
- ・(福)秋桜会
- ・フードバンクちば
- ・印西市青少年相談員連絡協議会
- ・高根病院
- ・さくらケアセンターそよ風
- ・若葉泉の里
- ・松戸市周辺の高齢福祉施設の方々
- ・認知症介護指導者の方々及び認知症介護研究・研修東京センター
- ・千葉県精神保健福祉士協会
- ・全国児童福祉支援ネットワーク(Zidonet)
- ・霜山様
- ・藪内様
- ・矢沢様
- ・多数の匿名事業所及び個人
- ・皆さまからいただきました募金 総額¥15,851円集まりました。

山武圏域におけるひきこもり支援活動について

2019年度は、山武市市民提案型まちづくり推進事業および大網白里市市民協働事業の採択を受け、「誰もが住みやすい地域づくり～ひきこもり当事者及び家族の支援～」として、(1)市民公開講座による普及・啓発活動と(2)当事者の会（心のいずみ）、(3)家族の会を実施いたしました。

【山武市】では、千葉県精神保健福祉センター医師石川真紀氏を講師にお招きし、「ひきこもり～その背景にあるもの～現代社会の心と身体と環境を考える」をテーマに、主な精神疾患についてお話しいただき、発達障害の特性や適切な関わり方、ひきこもり支援に共通するポイント、オープンダイアログの可能性についてお話しいただきました。また、家族の会では、木村病院精神保健福祉士後藤氏を講師に「オープンダイアログ」を実践し、ひきこもりの子を持つご夫婦と支援者による対話型のグループワークを行いました。当事者の会（心のいずみ）では、14名の参加

がありました。1月7日には、芝山仁王尊、浪切不動院にて初詣を行います。



ミーティング(山武市)

～お互いの悩みを共有する～

- ・うつ病を患った当事者より、親戚や周囲の人間より心ない言葉を言われ、とても傷心した。
- ・学校に登校できない当事者より、友人との付き合い方が分からず、自分の気持ちを吐き出すことができない。

【大網白里市】では、東京都就労訓練アドバイザー阿部達明氏を講師にお招きし、「8050問題をひもとく」～当事者・その家族と地域がつくるひきこもり支援～について講演いただきました。昨今、新聞やニュース等では、「ひきこもり」をキーワードとして様々な事件や話題が取り上げられ、市民の関心が非常に高まりました。そこで、”正しく”ひきこもりについて理解し、当事者とその家族が、地域から孤立することなく、互いに支え合う地域となり、当事者の会、家族の会が、社会資源の一つになることを期待するという言葉が印象的でした。大網白里市の家族の会では、第1回・第2回合わせて10家族の参加があり、活動の継続を期待するお声をいただきました。将来的には、家族の会が家族自らの力で運営できるような会になるよう応援をしていきます。最後になりますが、これらの活動も住民の皆様と関係機関の皆様のお力なくして取り組むことができません。今後も、皆様のお力をバネにして、地域に根ざした支援活動、地域づくりを展開していきますので皆様のご理解ご協力を宜しくお願いします。(赤堀)



第1回ひきこもり当事者の会





「法人設立5周年基調講演・シンポジウム報告」



法人設立5周年を迎え、6月29日に「専門職に求められるもの～支援の本質と問われる専門性～」をテーマに基調講演・シンポジウムを開催し、58名のご参加を頂きました。基調講演として社会福祉法人ワナーホームの寺田一郎理事長をむかえ専門職の根底にあるべき考え方をお話頂きました。お話の中で「相談者(利用者)への関心や思い入れがあるか」ということを問われ、自分自身の支援のスタンスを振り返ることができました。

また、シンポジウムでは、社会福祉法人慶美会の村越洋子氏、あまね法律事務所の遠藤直也氏、千葉リハビリテーションセンター田中康之氏、千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会の渋沢茂氏にご登壇頂き、専門性の重要性や考え方をお伝え頂きました。登壇者共通の意見は、「いかに相談者目線で考えられているか」ということでした。専門職は、「相談者の人生の中で専門的な支援が必要となった際、専門性を発揮し支援すること」「常に相談者自身を中心とした支援・チームケアが必要であること」を再認識する機会となりました。

当法人は、今後も地域住民や多分野多職種の方々のニーズを踏まえた活動を開催しますので、その際は、皆様のご参加をお待ちしております。(吉井)



多機関の協働による包括的支援体制構築事業

芝山町から委託を受け「芝山町くらしの相談室」が昨年6月に誕生しました。多機関の協働による包括的支援体制構築事業という地域共生社会推進に向けた国のモデル事業です。生活のしづらさを抱えながら暮らしている方や複合化・複雑化した課題に的確に対応するため、制度ごとの相談支援機関を総合的にコーディネートし、チームとして包括的な相談体制を構築し包括支援体制の整備、相談支援を行っています。具体的な事業内容は下記の5つになります。

①包括的相談支援体制の構築

複合的な問題を抱える方や制度の挟間に陥っている方等の相談支援を行います。課題の把握・整理→支援計画作成→関係機関との連携を図り課題解決を図ります。

②地域における相談支援機関等との連携体制の構築

町と地域の相談支援機関等が互いに連携をとり、チームとして複合的な課題へアプローチできるよう連絡体制及びネットワークの構築を図ります。

③自主財源確保のための取り組みの推進

事業運営の安定化や地域における新たな社会資源の確保に向けて活動します。

④新たな社会資源の創出

町に不足する社会資源の創出や協力してくださる近隣市町の社会資源との関係性の構築に努めます。

⑤人材の育成

関係機関や行政・地域住民が相互にスキルアップできる機会をつくっています。

町の福祉保健課内に職員を配置し、台風の被災時には町の職員と安否確認、避難所での出張相談等も実施しました。今後ともご支援・ご協力を賜りますようお願い致します。(高橋)

